

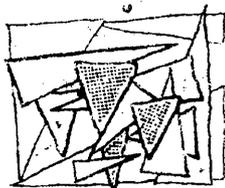
局この方法により、一・二日位で定量を完了する事ができた。こういう具合であるから、そのものの含有量を定量するのみに終つてしまった。

その他、糖の定量についても、又実験及び展示で脚光をあびた香料についても、そして酸の定量等についてもそれを担当した人は、四苦八苦、全力を尽してやつた。色素については去年の経験により問題はなかつた。

ざつと以上の様に私達はたゞ清涼飲料水の組成のみに終つてしまい、それもまだまだ充分でなく系統的に整理する事さえ満足にできなかつた。そのためアンケートによると、要点が不明だという意見もきかされた。

去年よりは幾分早く着手したのにもかかわらず、前期考査をひかえ、又栄養実習で毎週人が入れかわるので時間的に十分でなかつたという事で昨年度と同様である。それ故、食物科の実験、研究発表という事になると、今の様な形式であれば、中途半端なものにならざるを得ないのではなからうか？。こういった点も来年度はくりかえさないよう検討すべき問題である。

今年は昨年より参観者が多く、又アンケートによると、この様な展示及び実験に興味を持たれている人が多い事を知り、食物科を少しでも理解していただけた事と思う。私達実験に協力した者も随分失敗もし非常に貴重な経験をする事ができた。来年度も頑張つてより充実したものにしていただきたく私達の苦心談をここに記す。



文化祭をふり返つて

大 食 1 . 2

食物の一部とも考えられる水が、最近、工場排水や下水混入などによりひどく汚染されている。特に、渇水期の夏に著しく、大阪では浄水能力の限界とまで言われて、大きな社会問題となつている。

そこで、我々は『日本の現状を見なおせ』という統一テーマにもとづいて、水質検査を行うことに決めた。

さて、研究テーマは決定したものの、いかに活動すべきか全く見当がつかず、先生に水

の汚染現状や、活動順序等を説明していただいた。

先ず、夏休みに資料集めとして蹴上（京都）柴島（大阪）浄水場に行き過去15年間の水の汚染変遷や、川の地点による汚染変化などを調べたが、このデータにより、実験のおおまかな予想を立てることができ、その上、職員の方が快く参考資料を見せて下さったので、五里霧中の我々にとって大変助かった。

前期試験が終了して実験にとりかかったわけであるが、何しろ、初めてのことなので、どこの実験室を使つて良いのか、どこで器具を借りるのか、薬品をどうすれば良いのか、全く分らず、あちらこちら研究室を走りまわつて、どうにか実験のできる段階となつた。委員としては、落度のないよう必要なものは、そろえたつもりであつたが、実験担当者との連絡がうまくゆかず、細い点まで手が回りかねて、実験開始後も手間取つてしまつた。この点、来年は失敗のないようにするつもりである。期間が短かつたせいか、実験のための十分な勉強ができず、わからないところや、不審な点が多く出た。

また、水の採集方法、場所、保存時間などの制約を受け、一・二回生の能力・技術では、完全な検査ができず、中途半端な発表になつてしまつたのは残念だ。例えば、検液と標準液との比較において、顕著な差がある場合は別として、ほとんどが微妙なもので、正確な判定方法はないものかと疑問をもつたり、また、試薬づくりに時間がかかつたものもあつた。飲料水で最も問題となる大腸菌と一般細菌の培養が、時間と設備の関係上でできなかつたことは、一番心残りとするところである。

展示方法については、もつと一般の人に、わかりやすいように身近な問題を結びつけて発表するとか、シヨ一的な楽しい雰囲気を取り入れるとか、もう一工夫ほしかつた。この点では、舌の官能テストは成功したと思う。

とにかく、日数が少く、実験結果をまとめることに精一杯で、より良いものにするどいつた余裕は全然なかつた。

クラス内の連絡、協力がうまくゆかず、つまづいてばかりいたが、とにかく我々の未熟な能力と技術で、一応予想した結果が得られたことは、まずまずの成果だと言つて良いだろう。それに加えて、この研究発表により、友人との親しみが増し、クラスの団結力が生れてきたことは、異つた意味で文化祭の目的を達したことになる。

最後に、この研究は一・二回生共同で行うものであつたが、実際には、ほとんど二回生がやつてしまつて、一回生にとっては、自分の今している事が、どんな意味を持つのかさえもわからないまま終つてしまつたという感が強い。来年の文化祭には、こういう事のない様、普段から親密な交流をしあい、今度こそ、さらに盛大なものにしたい。